頭書
大全
世界國盡
阿非利加洲
二

阿非利加の事

阿非利加洲の廣さ八千二百九十四萬坪人の數六千一百萬北の方はヨーロッパ人の種もいと其餘は大抵黑奴まて風俗甚だ陋し國々王といひ帝と唱へて支配の君もい

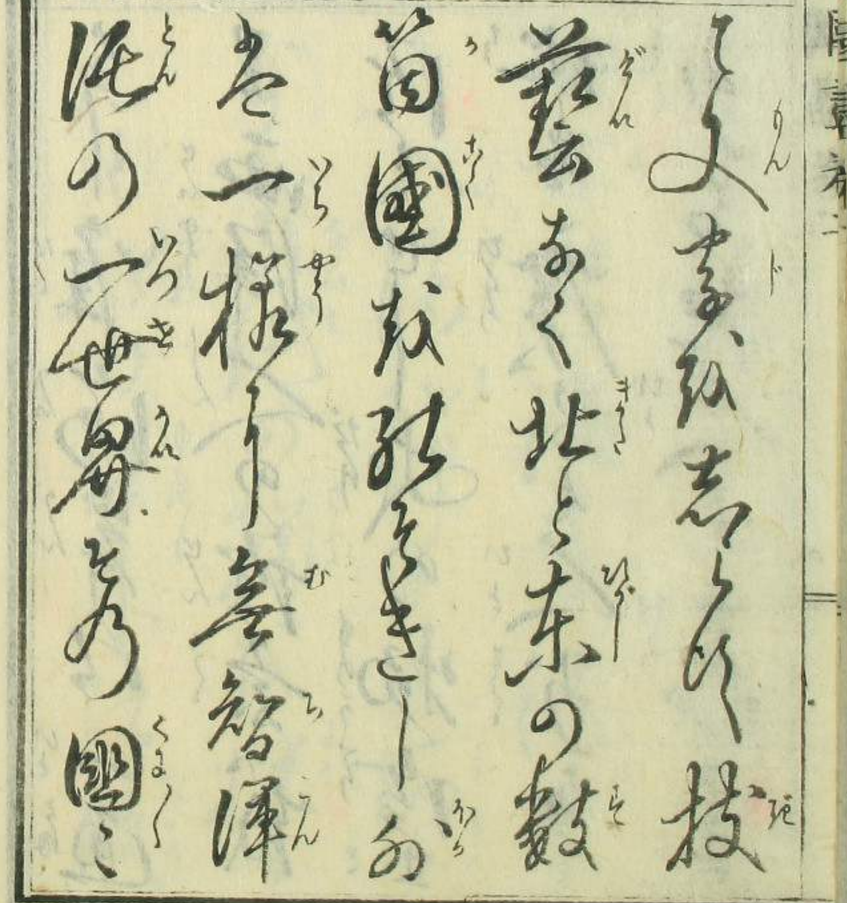
「阿非利加洲」の廣大

北は地中海南は東西二萬里西は

まことも強き者の力づくふて弱き者を苦しむる風なれども爭の絶間なしとれふ

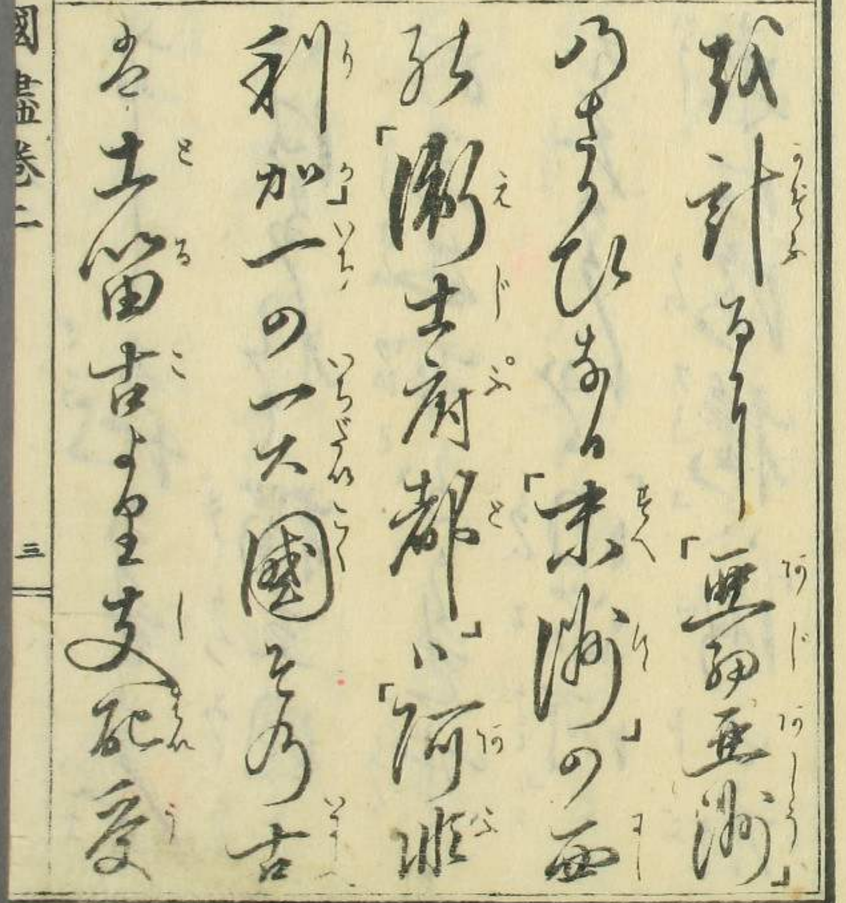
阿非利加ハ四方皆海にて唯亞細亞洲へ續く處ゑ亦洲の地峽として百里ばかりの地續なるのみ其の地續なる所の地續なる蒸氣車の路なりて一日に往來もべし又四五年前より佛蘭西人の發見せし地續を堀割を通船

の路を開うんとして大抵逆向もつき小舟の通ハ既に出来るよしあの堀割弥々成就しなバ歐羅巴より東洋の船度支那等へ航海をふ喜望峰を廻らずして地中海をへいぐ直に西紅海へいぐ



余程の近路なるべし

○衛士府都ハ山少く平地なれども内留といふ大河ありて國の中央を流れあの濕まるて田畑も登を且折々河の水溢れ其跡ハ却て作物よく出来るゆへ此國



の人ハ大水を以て豊年の瑞として悦ぶよし

亦一土地あり今ハ獨立國となる北海を以て東北を分ち「因幡河」この「海橋」「湖士府」

其の邊ハ不思議かる地まて四時とも雨降ゆむ草木を養ふものハ夜の露の時候ハ熱し砂塵と吹立人の住居ハ快かゆむ産物ハ米麥綿烟草の類か

衛士府都ハ古き國

都國の首府なり河の渡口岸切なる所は

二里ばかり沙羅

二井天竺四百八十

尺原式屋なる石塔の

まて名所旧跡沢山
かゝる宮寺かどの跡
も大造なるもの多
比羅三井天の數
も六七十ゆゑ其最
も大なるものハ本
文かもいへる通ゆ
高さ四百八十尺世
の言傳ハ三千年以
前國下の墓碑ハ建

「支那」乃墓ハ此地
と靜ゆ傳ふ古
跡とて人乃殘る
ハ此「國」内ハ流れ乃
ゆゑ出ずと

てしものなりと

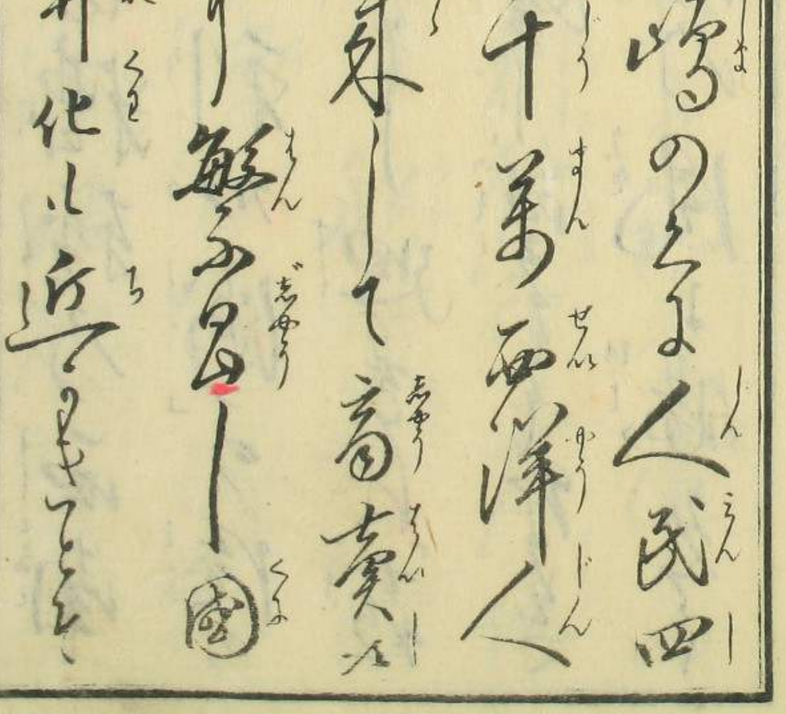
「びくにの
「で」の
圖

信濃國」ゆゑ乃南「河
「伊志伊屋」「西の海」乃
瀬戸乃口南東ゆ樓
森國「印度」の海ハ支
ゆ尼赤道越て南

○信野ハ衛士府都の支配なり阿弥志仁屋ハ獨立國なり此邊の河まひやでさまをといふ獸の大さ象の如し

「三義原」と「武山ひ丘」「阿淮利加」の東國物「麻田糟粕」「印度」「茂山ひ丘」の港より海「西洋」の海を渡る

○麻田糟粕ハ文化年中より歐羅巴の諸國と條約を結び俄ま風俗改め文武ともに盛なりしが文政十一年其國王良多馬ふる者王妃ま毒害せらるまを國中大乱の世となり一時ハ外國の為の為の人民四百七十萬西洋人も住居して畜産第一の解産国



幷化し近てまて

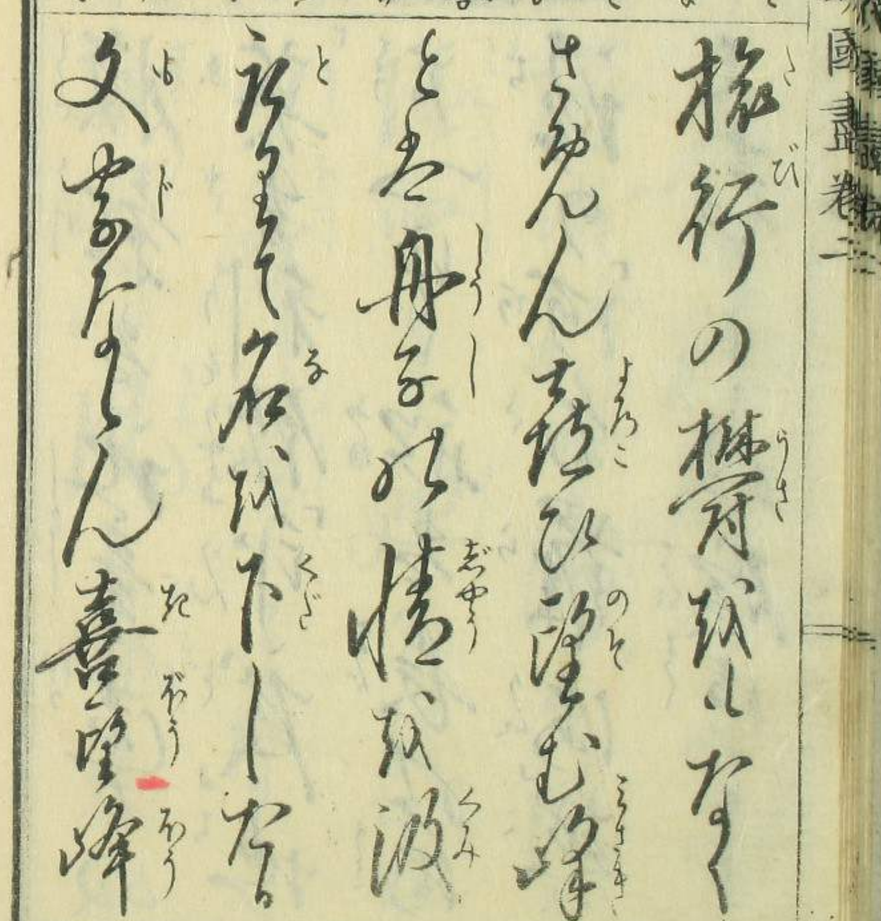
人とも殘らず追出し
したる近來ハ又々
開國とする外國の
附合も始りしかと
ども以前ハ較れど
國の威光大ハ衰へ
しく全く鎖國の
驚動ひとしかふ
國の都と棚奈龍
といふ繁花

「麻田糟糠乃西南
「阿波利加海」の陸の
「陸西」迴るは「義
「望峰」望きを
西海乃風ハ騰ぬ

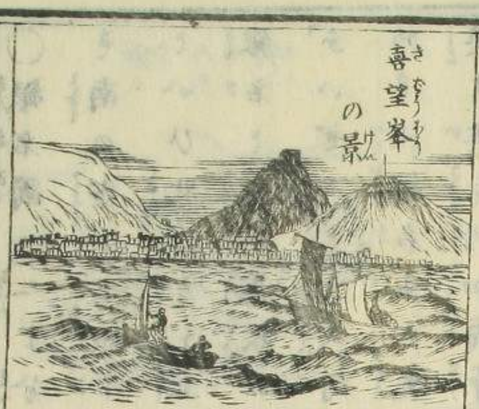
ある地ハもちろん
麻田糟糠輕の都棚奈龍の景

○喜望峰の地ハも
横斜ハ地峯迴ぬ如
「英吉利」「印度」地
「才」「ゆ」和ハ長ハ西
海の「阿爾羅海」越
て出ハ陸地

と和蘭の領分なり
しが六十年以前より
英吉利の支配と
なれり故に當時も
和蘭人の種多し喜
望峰の港の名を「ケ
ープタウン」といふ
商賣繁昌し産物も
多し南の方發天戸
池屋の邊に住居も



も阿非利加人ハ實
に愚かして人間の
内の下等なりとい
ふ



乃西のくに「費天戸池
屋」「新部橋」上下「銀
石」「理部利屋國」又
乃北の二箇國を「志
留良禮思」「瀬拉賀

○銀名國ハ二ッに分
も南の方を下銀名
といひ北の方を上
銀名といふ其界を
「ふいぜる」として大河
ゆく上銀名ハ處
處々英吉利和蘭等
の領分ゆく土地
の産物砂金又ハ椰
子の實の油などと

「宮うれ「阿非利加」
西國筋を乃國とのう」
樣ハ東の國ゝ異な
ゝ中より一區の「理
部利屋」ハ「阿非利加洲」

積出せよ下銀名
ハ葡萄牙の領分ゆ
へ此邊ハ獅子多
く折々人を害せ恐
るべきなり

乃國ハ一種奴隸
ハ共和政人民九十
第議事院たり
事議「北亞米
利加」ハ溫帶の自由

○古来阿非利加ハいはしき風俗流行して人と賣買をるあとはやはれとそきいぶといふ「それいぶ」とハ生涯買切の奉公人といふとやうり亞米利加ハぞくゝハ黒しくあの人を買込ミ田畑乃

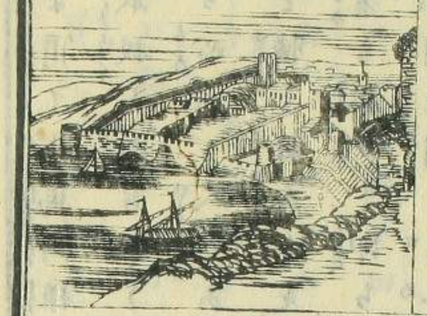
北風稀に暖き一面に一點の星乃耀く如くなる北に「地中海」乃小島へ北光

働ま用て牛馬同様ま取扱ふ風習なりしが心ある人ハあれを憐ミ救んとする者も亦多し即ち理部利屋國ハ亞米利加まて志ある人の申合まて建さる國あを近来をあをがさめ人の賣買も

百國の孤名を「北河北利加」乃「馬留馬里伊」乃北端に「茂祿子」「阿北利加」の一の一帝國に属す

大ま減ドさるよ

○茂禄子の港丹路留ハ治部良留多留の瀬戸ま臨ミ西班牙國と對岸ち



丹路留の景

都うま、地味肥て
天乃恵ハ濃ケまと
君ハ政事ハ薄く
農ハ勤ムる
者ま耶一東ま

○阿留世里屋ハ氣候穏ま一て五穀菓實の登るハと茂禄子ま劣らぞ其都ハ海岸ち小高き山の麓ま開て風景よ一四五十年前ハ此邊ま海賊多く諸國の船を悩せ我文化年中亜米利加の

「阿留世里屋」
人口二百五十萬ハ
武士ま四十萬
「佛蘭西國」ま改
乃ま不羈獨立

軍艦おれがしめる
阿留世里屋を攻て
六萬「どるらる」の償
を取しおとめ

の名を絶て佛
法を尊ぶ孫奉
行「ぶるかしん」
威を輝く豪士軍
艦數拾隻二百餘

○戸仁須戸里堀等
の諸國の内なる戸
仁須の人ハもく農
業を勤め且此國ハ
五穀綿烟草等の
外ハ銀銅鉛水銀の
産物ハ戸里堀の
人ハ麦を常食ハせ
ず都て荒火屋邊ハ
阿非利加の海岸

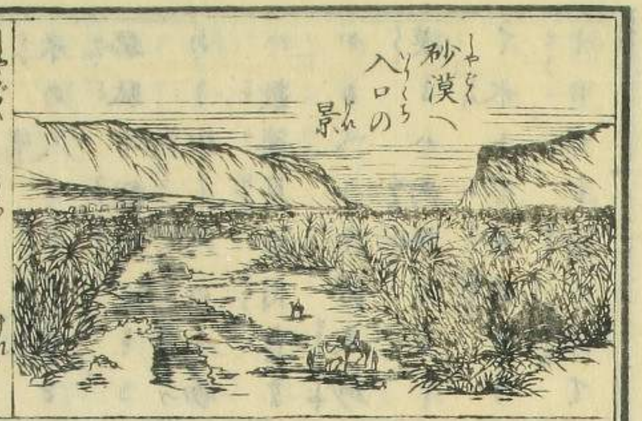
第四人民を佛教
西帝国の種族紀伯
利亞
東「衛士府」
都の間十七ヶ所

は寒の多き處

○阿非利加の内地は西洋人の詮索あもいまゝ委しくからず越尾比屋かどの人は最も教ゝして人情甚だ粗しふやむくといふ處の黒奴は人を殺て肉を喰ふ

「土耳古」

「戸仁源」「戸里城」「馬」「苗加國」「小亞細亞」「山國」「大陸」「人」「表」「同」「土耳古」「陸」「右」



砂漠の内は草も稀なれども草の茂りたる山ふ

「亞弗利加」「亞弗利加の内地」「大陸」「國境」「南方」「越尾比屋」

るあを譬へバ大海
に嶋めぐが如し往
来の人ハ草を
駱駝の飼料とする
あり但し人の食物
ハ數箇月の用意を
かるべし又砂
漠ハ雨降らず
て水ハ不自由
十日路も行て始て

「亦東の東を少しゆく
「亦西界中の大砂
漠東西一千二百里
南北九百餘里樹

湧泉を出逢ふ位の
ものとされバ飲水の
貯もふくて叶ぬ
ものとする頃を我文
化二年ハ當子阿非
利加の人二千人駱
駝千八百疋を引て
砂漠を渡りしに折
しも水のある處を
行逢せバして殘ら

茫々たる砂漠
の海にまぶれ
人ハ駱駝の背に乗
て
數日の糧を
貯へて北へ南へ

ぞ渇死さるものなし

○麻寺ハ小島なれども山水の風景甚よし

産物ハ葡萄酒なり氣候ハ春夏秋冬大抵同様なれ病人かどの養生所なり宜し加奈利屋ハ西班牙の領かなり

麻寺島の景

その模様ハ大抵麻寺と同し

○新都邊禮奈ハ英吉利の領分なり千八百十五年即ち我文化十二年の頃佛蘭西帝第一世ナポレオンを和阿戸留樓といふ處にとりて英吉利の將軍ネルソンと戰ふて敗北し此島を流さ

の里の北嶋峰

数四時こゝに

奉る小島の名ゝ嶋

の名ゝ北

西の廻ハ「輪留

もて生涯を終もて

られし嶋の評判

世に弘まり

新都邊禮奈島の景

田嶋「輪留田の南一里

淋し紀「新都邊禮

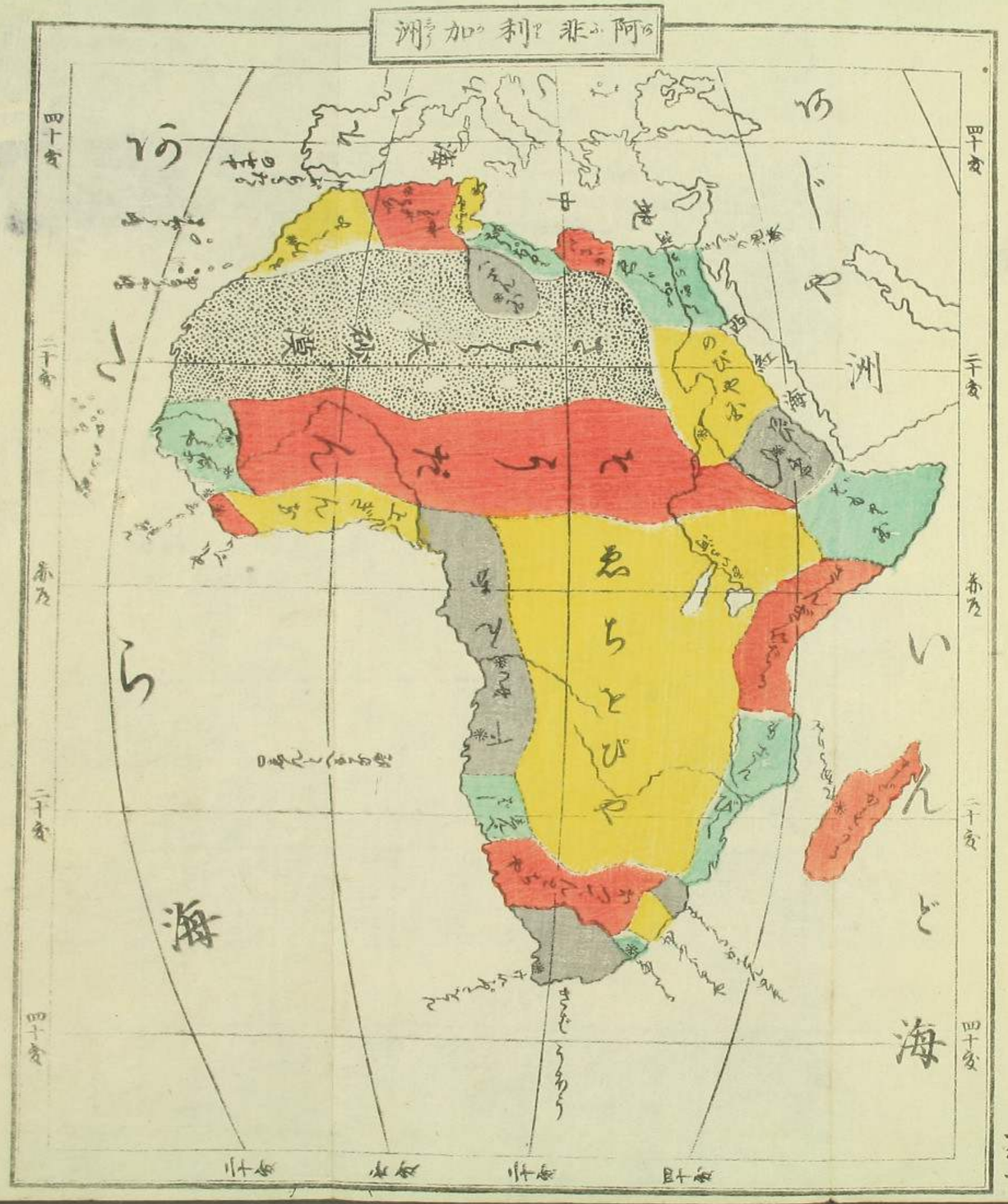
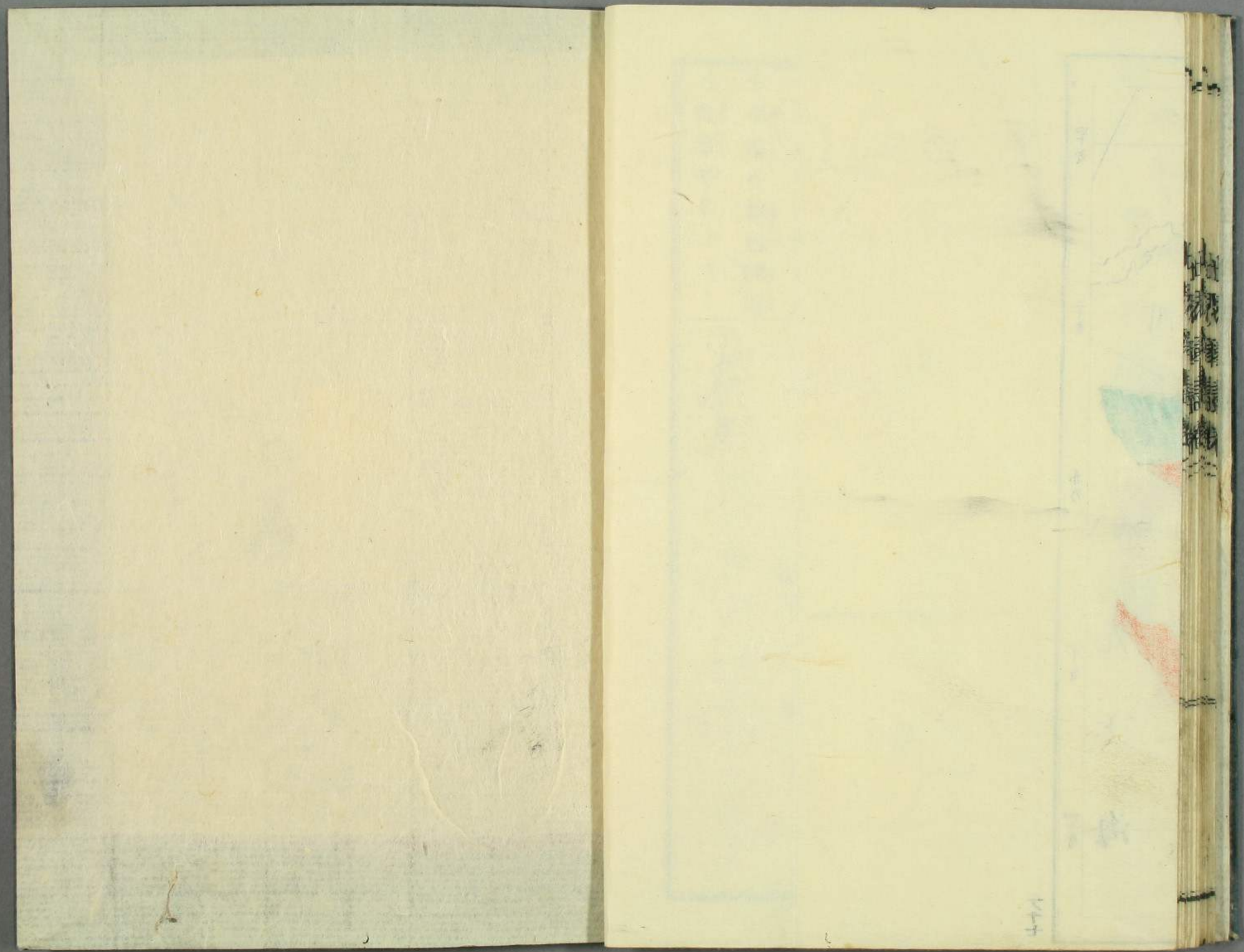
奈嶋」名所なり

なる「佛蘭西

「奈保禮田」「和

「せおもとん」を此島ふ流さを千八百二十一年五月五日ま命と終もで死後も罪人の取扱ありしが千八百四十年佛蘭西人の心願ま由で大造ある禮式ふて本國の都巴理斯へ改葬せる

阿戸留「樓」の戰ふ遠希蘭ふ於て流罪ま受しが由來ふて嶋の名興を少き事



大造ゆる禮式ハ
て本國の都巴理斯を
ハ改葬せを